ハローキャリアワーク通信

令和８年１１月
教育総合センター
事業推進担当課

まんがの図書館ガリレオによる

「まんがの図書館ガリレオにあつまれ！

自分の推しマンガを紹介し合おう！」

１０月３日、まんがの図書館ガリレオにおいて、２回目となる表題の活動が行われました。残念ながら１名欠席でしたが、９組の親子が元気に参加し、プログラムに取り組みました。

２回目の実施ということもあり、参加者たちはスムーズにそれぞれ着席しました。今回もはじめに教育委員会よりあいさつと諸注意があり、「今日はまんがの図書館ガリレオの店員になりきって、ＰＯＰ作成に取り組んでもらいます」と説明がありました。その後、まんがの図書館ガリレオの上関（かみせき）店長の進行により、プログラムがスタートしました。

はじめにアイスブレイクとして、全員参加型のゲームを行いました。１人目が手話でお題を表し、２人目以降が追加のヒントをジェスチャーで伝えて手話の意味を当てるというゲームです。「靴下」「海」「親」という手話を学びながら、参加者同士で協力して問題に取り組み、和やかな雰囲気の中でプログラムへと入ることができました。





「海」を動きでどう表す？

続いて、ＰＯＰの作り方について教えていただきました。ＰＯＰとは、「商品を買いたくなる仕組み」のことで、まずは商品を見てほしいターゲットについて理解することが大切だそうです。

さらに、ＰＯＰの文章を作る際のコツについても学びました。①一番伝えたいところ②細かい説明③一言メモの３つをそれぞれ１０文字にまとめて書くことが大切だそうです。また、デザインの部分では、文字のサイズを使い分けたり、物語のイメージに合うイラストを付けたりすると、動きのあるＰＯＰになると教えていただきました。さらに、作成前にイメージカラーを考えておくことも、ＰＯＰを作成する上では重要だと教えていただきました。

そしてＰＯＰをより多くの人に読んでもらうためには、自分の素直な気持ちを言葉にすることが大事だとお話しされました。



店長が書いた見本を見てイメージを掴みます



ＰＯＰ講座の後は、親子でそれぞれ分かれて制作活動を行いました。まず子どもたちは、完成イメージを掴むために店長が作成した見本をいくつか見せていただきました。その後、自分のおすすめマンガを紹介するためにはどのようなキャッチコピーがよいか、どんなイラストを描こうかと考えながら、それぞれが試行錯誤してＰＯＰを作り上げていました。

ＰＯＰ作成の時間は当初４５分ほどを予定していましたが、限られた紙面の中で自分の伝えたい内容を１０文字程度にまとめて書くことは思いのほか難しく、多くの参加者がじっくり考えながら取り組んでいました。ＰＯＰを描くマンガを読み返しながら、作品の魅力を表現する言葉のヒントを探している参加者の姿も見られました。





作成開始から約１時間後、全員のＰＯＰが完成しました。発表の時間を十分に確保できなかったため、子どもたちの作品を集めて鑑賞会を行いました。参加した子どもたちは、友達がどのようなマンガを紹介しているのか興味深そうに見比べながら作品を鑑賞していました。その後、保護者の作品が並べられると、その完成度の高さに子どもたちから「すごい！」という声が上がっていました。

プログラムの最後の振り返りでは、参加者全員から「楽しかった」という感想が聞かれました。中には、「ＰＯＰを作る大変さが分かった」と、お店の人の立場に立って考えることができた参加者もいました。また、マンガの魅力や面白さを改めて発見したという声も多く聞かれ、親子参加型として初めての試みでしたが、大変学びの多いプログラムとなりました。



参加者全員の作品です！

